

令和5年度 江戸川区立一之江第二小学校 学校関係者評価 最終評価報告書

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よく考え、進んで学習する子ども</li> <li>・思いやりがあり、助け合う子ども</li> <li>・体力のある、元気な子ども</li> </ul>	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・笑顔あふれる学校</li> <li>・自ら学び、自ら考える子ども</li> <li>・「子ども」「授業」「研修」「人の和」を大切に。</li> </ul>
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果>・全教員が協働し、児童の健全育成にあたった。全校体制で「あいさつ励行」に取り組むことによって成果を上げることができた。 ・学年をこえて、一之江二小マナー、学習の約束を基に、学習スタイルの統一を図ることによって、成果をあげることができた。 <課題>・ミライシード(ドリルパーク)を活用した学力向上の取り組みの充実を図る。 ・一人一端末を用いたICTを効果的に活用した授業展開の充実を図る。		

教育委員会重点課題	<取組項目>・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		年度末に向けた改善策
				取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
学力の向上	<学力の向上> ・授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	①東京ベアシックドリル診断テストの実施 ②東京ベアシックドリルの診断テストの結果を基にしたドリルパーク(ベアシックドリル)の活用 ③家庭学習週間(江戸川っ子study week)を設定することによって家庭における学習習慣の定着を図る。	①各学期の始めと終わり、年間6回の診断テスト実施。 ②年度末実施の診断テストの正答率、85%超えを目指す。 ③ドリルパークを活用し、7日間×3回(毎学期一回)の日程で家庭学習週間(江戸川っ子study week)を実施する。	A	A	①予定通り年間6回の実施とその結果を反映させた学習カルテを作成することができた。 ②年度末実施の診断テストの平均正答率は、%だった。 ③予定通り年間3回、ドリルパークを活用した家庭学習週間を実施した。	A	・家庭学習週間のおかげで家で勉強する習慣ができた。 ・ドリルパークの宿題はやっているのかどうか家庭で確認が難しい。 ・全国学力調査で、都・全国の平均を大きく上回る結果が出たのは素晴らしいことである。	・今年度、宿題や家庭学習週間、での「ドリルパーク」の活用は良くできた。これからは、更に「まるぐランド」も取り入れ、学習習慣の確立や基礎・基本の定着を図っていく。
	<読書力の更なる充実> ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	①学校図書館を活用した探究的な学習を実施する。 ②地域図書館からの団体貸出しを実施する。	①各学年学期に1回程度、探究的な学習を行う。その際、より充実した学習活動になるよう、題材に適した図書資料の選定を司書が行う。 ②低学年で月に1回、地域図書館からの団体貸出しを行う。様々な読み物に触れて、文章への興味関心を高める。	B	B	①高学年を中心に図書資料を活用した探究活動を実施することができた。 ②月に一度の地域図書館からの貸出図書のおかげで朝読書や読書の時間に意欲的に読書活動に取り組めた。	B	・読書週間のおかげで本が好きになり、家でも読書する姿が見られるようになった。 ・ICTの活用も併せて考えていく。	・今後も意図的、計画的に図書資料を活用した授業を計画していく。 ・ICTの活用も併せて考えていく。
体力の向上	<運動意欲や基礎体力の向上> ・児童の運動機会の確保	①「いちにピック」を設定し、いろいろな運動に取り組む機会をつくる。 ②なわとび週間や持久走週間を設定して体力の向上を図る。	①毎週金曜日を「いちにピック」と設定し、年間を通して全児童が様々な運動に取り組めるようにする。 ②それぞれ2週間に渡ってなわとびや持久走に取り組む。持久走については、持久走週間終了後、記録会を行う。	B	B	①定期的な遊びの設定によって、年間を通して様々な運動体験をさせることができた。 ②なわとび週間も持久走週間も意欲的に取り組めた。持久走記録会も盛り上がり、良いものとなった。	B	・持久走記録会に向けて家でも自主的に練習していた。本番では新記録を達成させて喜んでいく。 ・これまでも全員が1日1回は外に出て遊べるよう積極的に声を掛けていく。また、いろいろな遊びを児童に提供していく。	
共生社会の実現に向けた教育の推進	<特別支援教育の推進> ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	①特別支援全体会で児童の情報共有を行う。昨年度からの引継ぎも基にして、指導や声掛けの共通理解を図る。 ②エンカレッジルームの活用について、共通理解を図る。担当者を決め、必要に応じて対応する。 ③鹿本学園の担当者、保護者、担任、特別支援コーディネーターが連携を取り、進めていく。	①特別支援全体会を1学期・3学期に行う。日ごろから保護者と連携を取りながら、個人面談等を活用して指導の内容を検討していく。 ②校内委員会等で活用状況について、話し合いを行う。 ③年間1～2回程度の交流ができるように進める。	B	B	①予定通り特別支援全体会を2回行い、全体で情報共有することができた。保護者と面談などを重ね、連携を図ることができた。 ②担当一覧を作成し、児童の状況に応じて柔軟に対応することができた。 ③限られた時間ではあったが、良い交流活動ができた。	B	・担任だけでなく、全体で関わりながら指導してくれるのでありがたい。 ・これまで以上に早めの「報告・連絡・相談」を徹底し、情報共有し組織的に対応できるようにする。	
子どもたちの健全育成	<子どもたちの健全育成に向けた取組> ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hyper-QUの活用	①校内委員会の設置やSSWと連携を図りながら不登校児童へ対応していく。 ②全児童対象の個人面談とは別に、希望される保護者を対象に相談日を設けて、担任と面談する機会をつくる。 ③hyper-QUの結果について個人面談で話題とし、保護者とも結果を共有していく。	①不登校児童や不登校になりそうな児童を発見した際、速やかに校内委員会を開き、必要に応じてSCやSSWにつなげていく。 ②毎学期1回の保護者相談日の設定によって、希望する保護者と、子供について話し合う機会を設ける。 ③12月の個人面談で、hyper-QUの結果を保護者と共有する。	A	B	①SCやSSWと連携を図りながら組織的に対応することができた。 ②保護者相談日の設定により、40家庭を超える保護者と面談する機会をもうけることができた。 ③個人面談でhyper-QUの結果を保護者と共有することができた。	B	・教員とは違った観点で相談に乗ってくれるのでありがたい。 ・担任の先生に相談できる機会があつて嬉しい。	・今後も必要に応じて関係機関と連携を図りながら対応していく。 ・次年度も保護者相談日を設定して保護者と面談する機会を設けていく。
地域に広く開かれた学校(園)の実現	<自校(園)の取組の積極的な発信> ・学校(園)ホームページの充実等 ・学校(園)公開の実施・充実	①全学年による学校日記の定期的な更新 ②給食メニューのホームページアップ ③学校公開では、参観制限なしで全学級の授業を参観できるようにする。	①全学年が毎週1回は、学校日記を更新するようにして学校で教育活動を紹介し、ホームページを充実させる。 ②毎日、給食のメニューを学校日記にあげていく。 ③年間4回、5日間の学校公開では、全保護者が全ての学級の授業を自由に参観できる形をとっていく。	B	B	①おおむね各学年、週1回の学校日記更新ができた。 ②毎日、給食の写真をホームページに掲載することができた。 ③学校公開では、制限を設けることなく自由に他学年の授業を見られるようにした。	C	・以前に比べて学校日記の更新が少なくて残念である。 ・給食の写真がホームページにあがっているのでアレルギーなどの確認ができてありがたい。	・全教職員で学校の様子を学校日記にアップしている。 ・次年度も保護者相談日を設定して保護者と面談する機会を設けていく。
	<学校関係者評価の充実> ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	①保護者評価の実施 ②学校関係者評価の実施	①年一回(11月)実施 一回答率60%以上 ②年三回実施	①今年度もFormsを用いて実施したが、回収率が34%と伸びなかった。 ②年3回実施し、毎回貴重な話や意見を聞かせてもらうことができた。	B	C	①今年度もFormsを用いて実施したが、回収率が34%と伸びなかった。 ②年3回実施し、毎回貴重な話や意見を聞かせてもらうことができた。	B	・tetoruで連絡が来ていたがアンケートをやるのを忘れてしまった。学校便りなどでお知らせしてほしい。 ・アンケートの回収率を上げるために、学校便りやtetoruなどを活用して更なる声掛けを講じていく。
特色ある教育の展開	<一部教科担任制の推進>	①3年生以上による一部教科担任制 ②低学年による交換授業	①高学年は、社会、理科、算数、国語を教科担任制により分担任して指導する。 ②一単元を担当している以外の学級で指導する。	B	B	①教科を分担任して取り組むことができ、質の高い授業を提供することができた。行事の前など高学年は授業の変更が難しかった。 ②担任以外の教員による授業を楽しんで取り組んでいた。	B	・担任の先生だけでなく複数の先生に授業を担当してもらえて子供も楽しんでいる。	・次年度に向けてより質の高い授業を提供できるよう、取り組み方を改めて検討していく。
	<「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施>	①会議の精選 ②一層のペーパーレス化の推進	①夕食⇒週1回 生活指導夕会⇒週1回 職員会議(年間8回) ②学校便り、保健便りのデジタル配信	①職員会議の議題を夕会に回すことによって、予定していた8回の職員会議を6回に精選することができた。 ②予定通り学校便り、保健便りをデジタル配信することができた。	B	A	①職員会議の議題を夕会に回すことによって、予定していた8回の職員会議を6回に精選することができた。 ②予定通り学校便り、保健便りをデジタル配信することができた。	B	・学校便りがtetoru配信になり、スマホで手軽に見れてありがたい。 ・来年度も夕会を有効活用して会議の精選を進めていく。 ・来年度に向けて更なるペーパーレス化を図っていく。